研究ノート

ロジコミ・メソッドの活用事例

――2020 年度の講義での実践を通じて――

今　堀　洋　子

Ⅰ．はじめに

2019 年の秋に冊子化されたロジコミ・メソッドであるが，それ以来，担当している講義の色々な場面で活用してきた。2020 年度は，新型コロナウィルス感染症対策として，追手門学院大学も，春から講義は，全面的にオンラインとなったが，その中でも，筆者は，ロジコミ・メソッドも盛り込みながら，アクティブ・ラーニングを実践してきた。本研究ノートでは，2020 年度の講義における，ロジコミ・メソッドの活用事例について紹介する。

Ⅱ．ロジコミ・メソッド

ロジコミ・メソッド（図１）は，アクティブ・ラーニングを進めていく中で，必要となる「人に伝えるためのツールとコツ集めた，ロジカルコミュニケーションのためのメソッド」である[i]。成熟社会研究所で，数年にわたりチームで対話を重ねてきた結果，形になったものである。



図１　ロジコミ・メソッドの表紙

ロジコミ・メソッドは，図２に示す通り，第１章は，「グループワークを楽しむ」，第２章は「世界を拡げる」，第３章は「伝えて共鳴する」と，３部構成になっている。またそれぞれの章も 3 段階方式になっている。

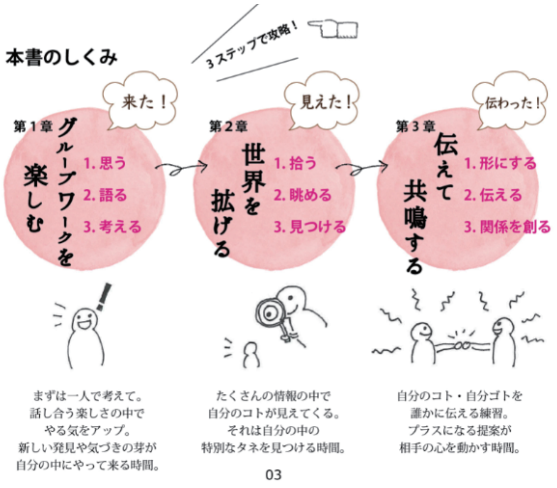

図２　ロジコミ・メソッドの構成

特質すべきなのは制作段階で，学生の意見を取り入れた点である。2019 年の夏に，学生有志に集まってもらいワークショップを開催した。その際に出た意見として，グループにおける「私の役割ってなんだろう？」（冊子の 16 頁）や，「グループワークは友達同士がいい？」（冊子 16 頁）といったように，学生達がグループで話し合った結果が，コラムとして掲載されている。また，「学生が考えたアクティブ・ラーニングフロー」（冊子 33 頁）も，当日のワークショップで二つの班に分かれて話し合われた内容である。更には，学生達としてアクティブ・ラーニングの評価が気になるという意見が多数寄せられたのを踏まえて，冊子の最後に，「アクティブ・ラーニングの評価とは？」（冊子 46 頁）を追加することにした。

Ⅲ．2020年度の講義でのロジコミ・メソッド活用の実践例

3-1．講義全体での実践概要

2020年度に担当した講義12科目全てにおいて，ロジコミ・メソッドを活用した。表１に，それらがどんなメソッドであったのかを示した。全体でみると，「グループワークを楽しむ（第１章)」のメソッドが多かった。中でも，「質問をしてみる」，「インタビュー」は，多くの講義で取り入れた。講義にゲストスピーカーをお呼びした際に，学生達が事前に質問を考えるということと，ゲストに有志の学生がインタビューをするという形で実践した。一方，「世界を拡げる（第２章)」のメソッドは，あまり活用できなかった。「情報を眺める」際に使えるメソッドとして紹介されているマインドマップとマンダラートは，それぞれ一つの講義で活用してみたが，ブレインストーミング，KJ法，マトリックスなどは，その機会がなかった。また，「伝えて共鳴する（第３章)」では，グループや個人での発表に先立ち，「プレゼンテーションの基本」を講義に盛り込んだ。見開きで，簡潔にまとめてあるため，プレゼン資料を作る際にも，実際に発表する時にも役立ったという学生からのコメントも多かった。

表１　2020年度の講義で実践した
ロジコミ・メソッド一覧

春／秋	科目	受講者数	ロジコミ・メソッド									
			全体	第１章					第２章		第３章	
			気になる箇所	トリセツ	他己紹介	質問	インタビュー	リレー式スピーチ	マインドマップ	マンダラート	プレゼンの基本	論文の書き方
春	環境の科学Ａ	130									○	
	環境の科学Ｂ	130									○	
	環境経営論	60					○				○	
	新入生演習	20		○	○	○	○					○
	入門ゼミ１	20		○	○		○					
	基礎ゼミ２	17		○	○		○					
秋	地域と暮らし１	180									○	
	地域づくりと環境	180				○	○				○	
	地球環境論	30				○	○		○			
	ＮＰＯ論	60				○	○				○	
	入門ゼミ２	20				○		○				
	基礎ゼミ２	17	○			○		○		○		○

3-2．ロジコミ・メソッドで気になった箇所は？

秋学期の基礎ゼミ２において，「ロジコミ・メソッドを読んで，気になったページ，なぜ気になったかなど教えてください。」という問いかけをしてみた。結果は，図３の通りとなった。当日は，マンダラートを使い，それぞれ自分が好きなことについて８つ書き出した上で，２～３人のグループで，自分のマンダラートを見せながら，対話をするということを試みたので，それについて言及している学生が多かった。実際に，マンダラートが，アイデア出しの時に活用できると気づいたり，人により興味関心が異なるということを新鮮に感じた学生もいた。その他にも，「未知なる世界との遭遇」のページにワクワクを感じたいう意見もあった。

ロジコミ・メソッドで気になった点は、今回の授業でも、マンダラートです。授業では幸せな事についてのテーマから掘り下げ、授業の最終課題に取り組む先だてとして書出した。やり始めは、ただただ好きな事を書いてるだけであったので、全体図を掴めなかったが、全部埋めた末、自分のテーマが決まったので、凄い手法だと思いました。 そしてゼミでの散歩は親睦を深めるためにも必要だと思います。
ロジコミメソッドを読んで、5ページが気になりました。なぜなら、人は、ひとりだと喋ってもつぶやきになってしまうが、人がふたり以上いればそれは意見になり、三人なら提言になるという言葉が私に響きました。また、人はひとりだと思っているだけで誰にも伝わらないんだとも思いました。そして、こういう当たり前のことに気づくことができてよかったです。
6ページと7ページのグループワークを楽しむというページが気になりました。今日の授業でも友達と話し合いをして自分だけで考えていたこととは違う考えや、地域やまちづくりにどうやって繋げるかなどを色々な視点から考えることができました。7ページの人はさまざまだから、アイデアの花もいろいろという言葉がとてもさささりました。
全ページ面白かったですが、特に32ページにある、伝える工夫という面が面白かったです。話すときに、何も考えずに言葉を発しているのですが、ここにも記載されている通り、ポイントを絞ってから表現するという方法がとても良いなと感じました。これからの日常生活でぜひ活用していきたいと強く感じました。
私は、二人で語る・みんなで考える１０ｐ～１３pの内容に興味を感じた。グループワークは、一人では絶対に行うことは出来ず、誰かと話すことで成り立つことは知っていたが、人数によって語るのか考えるのかという視点は面白いと感じ、人数でグループワークのやり方にも違いがあることに興味が沸いた。
ロジコミメソッドで気になったページは18ページだ。知らないことからどんどんわだいをふかめていくものだが、未知の現場に足を踏み込む楽しさ、インタビューの大切さが書かれており、これを大事にすれば、少しずつ色々な世界が開けていくようなワクワク感を感じた。
私の取扱説明書は、春学期の時にしましたが面白かった記憶があります。昔流行ってたプロフ帳みたいな感じで、すらすら書くことが出来ました。自己分析を通して、自分がどんな人になりたいのかまで少し分析できたりするので自分で書いていても楽しい気分になれます。
ロジコミ・メソッドを読んで気になったことは社会人基礎力に標榜される汎用的能力の養成を目指していると言うところである。さらに企業の人事研修担当者と利用者へのヒアリング調査を合わせて行うと言う点が将来自分のためになると感じ、気になった。

図３　ロジコミ・メソッド気になった箇所は？

3-3．論文やレポートのテーマ決めと執筆プロセスのやりとり

春学期の新入生演習，秋学期の基礎ゼミ２において，最終課題として，各自テーマを定めてのレポート（1500字）およびミニ論文（5000字）を課した。その際，いきなり文章を書き出すのではなく，テーマを決め，アウトラインを熟考することから始めてもらった。そのため，講義を３～４回利用して，執筆の進捗状況を披露してもらったり，グループに分かれてお互いアドバイスをしあったり，画面越しに，全体に対して，途中の段階のものを音読してもらうなども試みた。

各自，テーマを決めてもらう際には，マンダラートを，そして，アウトラインに関しては，「レポート，論文の書き方」（図４，図５）を示し，それに沿った形で取り組んでもらった。

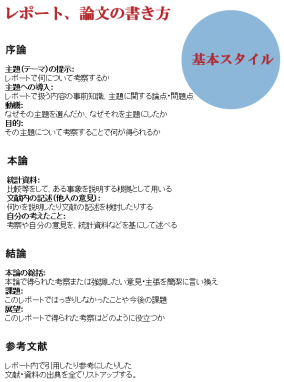

図４　レポート，論文の書き方①

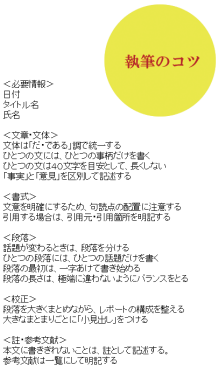

図５　レポート，論文の書き方②

図６に新入生演習の振り返りコメントを示す。これは，既に各自が考えたアウトラインを元に，最終課題のレポートを書き進めている途中段階のものを，オンラインの画面で共有して，順番に見ていきながら，アドバイスをした回のものである。学生のコメントからは，書き進めていくうちにアウトラインがそもそもそれで良かったのかと疑問に感じ，もう一度見直しを始めている様子や，アウトラインの重要性に気づいたというコメントや，他の人のアドバイスも自分に照らし合わせて吸収しようとする姿勢などが見て取れた。

今回の授業は主にみんなのアウトラインの肉づけを見ることで終わってしまいました。みんなのレポートの内容がすごくてびっくりしました。私はアウトラインに合わせようとしすぎてレポートとして大丈夫なのかと心配になりました。アウトラインの時点で間違っているのか、慣れないレポートの作成で書くことがスラスラ出てこないのかはわかりませんが、自分が何を一番書きたいのか考え、１から見直そうと思います。
序論を書いてみたが、アウトラインの作成が重要であると感じた。授業内でみんなのレポートを順番に見ていく進め方は、時間はかかってしまうが、より自分のレポートに向けたイメージなどがしやすいので、有意義な時間であると感じた。そして、誰かの考えを参考にすることは、意外に難しいものだと感じた。真似をするだけならば簡単なのかもしれないが、真似をしたうえで、自分の考えに取り入れていくには、客観的に自分の考えを捉える必要があるので、広い視野が求められるので一筋縄ではいかないと思う。しかし、客観的に捉えながら、自らの考えを確立していくことができれば、良いレポートが作成できると思うので、前向きに取り組んでいきたいと思う。
授業内で今堀先生が一人一人のアウトラインにアドバイスをして頂けるので課題に取り組む時にアドバイスを参考に書く事ができるのと、他の人のアウトラインに対してのアドバイスなどを自分の内容と照らし合わせて参考にできるところなどを参考にできるので、課題に取り掛かりやすいです。オンライン上ですがこれが学び合いなのだなと新入生演習の授業を受けていて毎回思います。最終課題に向けて授業内で毎回取り上げてくださるので一人で課題に取り掛かるよりもすごく心強いです。今回授業内で頂いたアドバイスを参考に自分なりに努力して良いレポートに仕上げていきたいなと思います。
レポートを、完璧にアウトラインどうりに作ろうとしても、なかなかうまくいかず、結局アウトラインから書き直すことになってしまったので、レポートとしての体裁を何とか整えながら完成できるように頑張りたいと思います。 　また、レポートのルーブリックと今の時点で出来ているところを見比べると、自分で「非常に良い」と言える箇所がまだなかったので、これから書き進めていく中でルーブリックどうりに書きたいと思いました。
今回の授業では、前回の課題について時間をかけていましたが、皆さんのお話を聞いてても最終レポートの書き方も理解していないので、てこずっています。今回先生の指摘がなかったので、今後の本論・結論に向け、不安だらけです。チェックインを聞いている限り、ほとんどの方が書き方が分からないと仰っていたので、不安なのは自分一人ではないのだと、少し安心しました。あと、タイトルの方が決まりましたが、結構時間を費やしてしまったため、序論が曖昧になってしまったという印象がありますので、そこも踏まえて自分のペースで見直していきたいと思いました。

図６　新入生演習の振り返りコメント

3-4.　トリセツ・リレーインタビュー

春学期は，ゼミや新入生演習など少人数クラスもオンラインであったため，通常，初回のオリエンテーション時に行うクラスの仲間を知るための交流にも工夫をこらし「トリセツ・リレーインタビュー」を実施した。

具体的には，ロジコミ・メソッドの中にある「わたりのトリセツ」を使い，パワーポイントで作成されたひな形に，必要な項目を入力する形で，各自作成をしてもらった（図７・図８）。

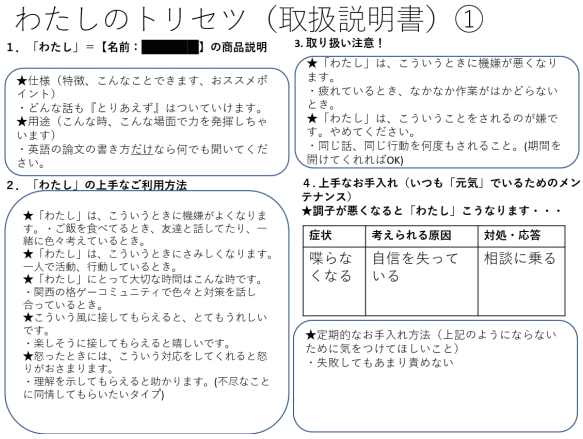

図７　わたしのトリセツの事例１

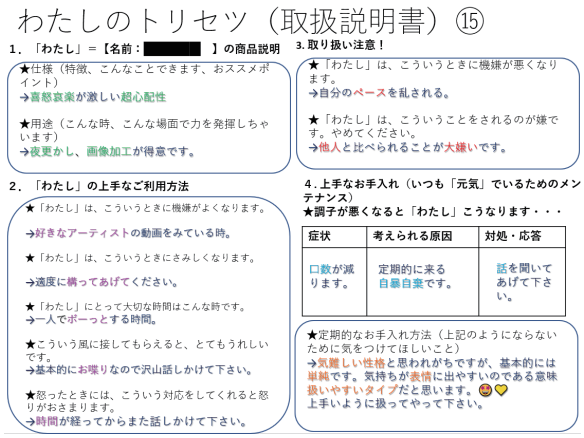

図８　わたしのトリセツの事例２

提出された各自のトリセツを一つにまとめ，通し番号をつけ，①番の人から順番に，画面に共有し，次（②番）の人が，①番の人のトリセツの内容を見て，気になることを３つ以上インタビューする形で進行していった。①番の人が終わったら，②番の人が③番の人にインタビューを受けるという形で，教員も含めて，リレーインタビューを続けた。尚，１回の講義で全員分を行うのは，時間的にも難しかったので，「み

んなのトリセツ」というコーナーを設け，毎回の講義の最後に，３～４人ずつ実施するという形をとった

トリセツ・リレーインタビューを，春学期は，二つのゼミと新入生演習で実施したが，どのクラスでも，とても好評であった。以下，振り返りコメントから学生の意見を抜粋する。

- 「わたしのトリセツ」は，クラスの仲間それぞれの得意なことや，どんな人なのかを簡潔に知ることができ，今後どう付き合っていけばいいのかが分かったので，とても良いアイデアだと思いました。また，クラスの皆の「わたしのトリセツ」を読んで，このクラスには個性的な人や面白そうな人がたくさんいることが分かったので，対面授業がますます楽しみになりました。
- みんなのトリセツが読んでて面白かったです。自分がインタビューされると思うと今から緊張します。
- 今日の私のトリセツでのインタビューが思ったより楽しそうだったので，事前に前の人に何を聞こうか考えておこうと思います。
- 自分のトリセツの発表の課題では，その人の性格を知れることに加えて，質問者の方との掛け合いもとても面白かったので，今後もこの取り組みが楽しみです。こういう機会を使っていろんな方と関わっていきたいなと改めて思いました。
- 今回の授業でみんなの弱点や良いところなどを知れてめっちゃくちゃ面白かったです。インタビューするっていうのもする側とされる側との距離を縮めるいい方法だなと思いました。
- 今日のトリセツのリレーインタビューで，まさか自分がインタビューするとは思っていなかったのでとても緊張しました。授業前にみんなのトリセツを見ていたけど，一人一人個性があってとてもおもしろかったです。
- トリセツがとても面白かったです。自分のトリセツで書くことがなくて悩めば悩むほど沼にはまり困りました。

といったように，学生達は，トリセツ・インタビューを面白がっていた。ステイ・ホームが続き，いつになく人との交流を渇望していた時期であり，特に１回生にとっては，大学で新しい友達を作りたい時期であったので，他者への関心が向いていたように感じた。

トリセツ・リレーインタビューは，ロジコミ・メソッドのいくつかを組み合わせ，アレンジして実施したものであるが，もっとも手ごたえ得た実践例の一つであった。

Ⅳ．おわりに

2013年度，当時同志社大学大学院の総合政策科学研究科の教授であった中野民夫氏の元で，筆者も，大教室での参加型授業の試みを学ぶ機会を得た。それ以来，担当する講義でのアクティブ・ラーニングの試行錯誤を続けてきた。並行して，成熟社会研究所のプロジェクトメンバーと共に，数年にわたり，アクティブ・ラーニングの実践のチエとコツを集めた「ロジコミ・メソッド」を開発に携わり，2019年の秋にロジコミ・メソッドが冊子として誕生した[ii]。以来，ロジコミ・メソッドを，色々な場面で活用してきた。

本研究ノートでは，2020年度を振り返り，講義の中で，どのようにロジコミ・メソッドの活用したのか，具体的な実践例を取り上げて紹介した。2020年の春は，講義が全面オンラインであったが，その中でも，ロジコミ・メソッドのいくつかを組み合わせて，アクティブ・ラーニングを実践した中で，効果をあげたものもあった。その中の一つが，３章で事例としてあげた「トリセツ・インタビューリレー」である。メソッドを組み合わせて，アレンジすることで，様々な活用方法の可能性があることがわかった。個人的には，まだまだ，ロジコミ・メソッドを活用しきれていないので，ツールを取り込むなどしていきたい。また，ロジコミ・メソッドの効果についての測定を，定量的にしていくことも課題である。

今後の展開として，ロジコミ・メソッドを，広く活用してもらうために，学生，そして，教員の声を聴くことが大事である。そのために，成熟社会研究所として，学生ロジコミ・モニターを募集し，ロジコミ・メソッドを，講義に限らず，課外活動・学外活動などで使ってもらい，どんな場面で役立ったか，どんなものがあれば役立つかなどの意見を出してもらうことを始めた。また，教職員向けには，教育サロン[iii]にヒントを得て，ロジコミ・サロンを定期的に開催する予定である。そのサロンでは，ロジコミ・メソッドを紹介するだけでなく，アクティブ・ラーニングを実践するにあたり，どんな悩みがあるのかを意見交換しつつ，アクティブ・ラーニングの実践例を学び，ロジコミ・メソッドの活用方法についても意見を出し合う場としたい。

参考文献

i 追手門学院大学　成熟社会研究所編、2020「一人で思う、二人で語る、みんなで考える」岩波ジュニア新書
ii 今堀　洋子、2020「オンラインライブ授業におけるアクティブ・ラーニングの試み」2020 年度私情協　教育イノベーション大会資料、196 頁
iii 池田輝政・松本浩司編、2016「アクティブラーニングを創るまなびのコミュニティ」ナカニシヤ出版